

感染症対策には一人一人の準備が大切

コロナ禍の避難を考えよう

新型コロナウイルス感染症の終息が見通せない中、台風や地震などの災害により避難所に避難する場合には、感染症対策に万全を期すことが重要です。

感染リスクが高まる避難所

避難所は密閉した空間に多くの人が密集し、密接する「三つの密」になりやすい環境です。そのため避難所では、新型コロナウイルスなどの感染症が拡大するリスクが高くなります。

避難所の衛生環境を確保し、できる限りの感染拡大防止策を実施しますが、避難者一人一人が意識して予防対策をすることが大切です。

新型コロナウイルス感染症のリスクがある中での避難について、日ごろから準備をしておきましょう。

避難所が8か所に

避難者が密集することを避けるため、台風などの風水害時に開設する避難所を4か所増設します。

これまでの避難所／総合体育館、海上公民館、飯岡保健福祉センター、ひかた市民センター
増設する避難所／一中体育館、海上中体育館、飯岡中体育館、ふれあいセンター

避難所での感染症対策

避難所ではマスクの着用や咳エチケット、小まめな手洗いなど基本的な感染症対策を徹底し

テントやシートを利用して避難スペースを区分



ましよう。避難所の受付では入室前に検温や体調の確認を行います。発熱や咳の症状がある場合は、別室の専用スペースを案内します。

体育館やホールなどの大きな空間では、避難者同士の距離を十分に保つため、間隔を空けてシートなどを設営します。エア



コンがある施設ではテントを使用して、避難スペースを区分します。

避難所以外への避難も考えよう

感染のリスクを負ってまで、無理に避難所に行く必要はありません。

自宅が浸水や倒壊する危険がないなど、自宅での安全が確保できる場合は、在宅避難をしましょう。災害の危険性がない親戚や友人の家も、避難場所として検討しておきましょう。

感染対策品の準備も

災害はいつ発生するか分かりません。災害に備えて、飲料水と食料は3日分、できれば1週間分備蓄しておきましょう。

避難する場合は、非常持ち出し品のほか、感染防止のためのマスクや手指用アルコール消毒液、体温計、ごみ袋も持参してください。

警戒レベルに応じた行動を

大雨や土砂災害などの避難情報を分かりやすく伝えるため、5段階の警戒レベル(下表)が設定されています。

警戒レベル5は、すでに災害が発生している状況です。警戒レベル4や3が発令されたら、避難を始めましょう。危険度に応じた警戒レベルが防災行政無線や防災メールなどから情報発信されるので、レベルごとの危険度や、取るべき行動を確認しておきましょう。

普段から確認しておこう

避難情報は全ての地区の人を対象に発信されるものではありません。土砂災害警戒区域など、災害が発生するおそれのある、危険な場所にいる人を対象に発信されます。

市では土砂災害ハザードマップと津波ハザードマップを作成しています。ハザードマップで自分の家の安全性を確認し、自宅以外の場所に避難すべきか考えてみましょう。自分の家が危険な場所にある場合は、早めに安全な場所に避難することが重要です。普段から、いざというときにどのように行動すべきか考えておきましょう。

問い合わせ先

総務課地域安全班

☎ 62・5311

警戒レベルの5段階区分

警戒レベル	取るべき避難行動	市などが行動を促す情報	警戒レベル相当情報(例)
レベル5	すでに災害が発生している状況です。命を守るための最善の行動を取りましょう。	災害発生情報 〔市町村が発令〕	警戒レベル5相当情報 氾濫発生情報、大雨特別警報など
レベル4 〔全員避難〕	速やかに避難先へ避難しましょう。避難場所までの移動が危険と思われる場合は、自宅内や近くの安全な場所へ避難しましょう。	避難指示(緊急)、避難勧告 〔市町村が発令〕	警戒レベル4相当情報 氾濫危険情報、土砂災害警戒情報など
レベル3 〔高齢者などは避難〕	避難に時間を要する人(高齢者や障がいのある人など)とその支援者は避難しましょう。それ以外の人は、避難準備をしましょう。	避難準備・高齢者等避難開始 〔市町村が発令〕	警戒レベル3相当情報 氾濫警戒情報、洪水警報など
レベル2	避難に備え、ハザードマップなどで避難先や道順を確認しましょう。	大雨注意報・洪水注意報など 〔気象庁が発表〕	警戒レベル相当情報は、市民が自主的に避難行動を取るために参考とする情報です。市はその情報を踏まえ、必要に応じて避難勧告などを発令します。
レベル1	災害への心構えを高めましょう。	早期注意情報 〔気象庁が発表〕	